



イノチオ診断室からの 病害虫情報

2019年
8月号



フザリウム属菌による病害の持ち込みが増加中※！
今後も発生にご注意ください。 ※7月に14件の持ち込み



キク 萎凋病
導管褐変の様子



トマト 立枯病
(フザリウム完全世代：赤い子のう殻を形成する)

病原菌	糸状菌 <i>Fusarium oxysporum</i> ・ <i>Fusarium solani</i> など
感染作物	ナス科（トマト・ナスなど）、ウリ科（メロン・キュウリなど）、キク科（キク）など
症状	株の萎れ・黄化・枯死、地際部の黒褐変、根の褐変腐敗、導管褐変
多発条件	高温時（25～28℃前後、病害によっては10～20℃の低温の場合もある） 過去の発病圃場（土壌・培地中の残渣に菌が生存するため） 肥料過多などによって根傷みしやすい土壌環境
対策	被害株の圃場からの除去（隔離栽培の場合は培地も合わせて除去する） 土壌消毒（バスアミド、クロールピクリンなど）の実施 耐病性台木の使用 堆肥や土壌改良剤による土壌の物理性改善（過湿対策） 過剰施肥を避けた管理（根傷み対策）

気象庁の1か月予報では気温は平年より高く、降水量は平年並みの確率が最も高くなっています。

平年よりも高温になり、フザリウム属菌による病害の多発が懸念されます。
土壌物理性の改善や、天候に併せた灌水管理により、根痛みの予防を心がけましょう。